



大人の学び

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

新年、明けましておめでとうございます。今年も子どもたち、保護者や地域の皆さん、そして、本校の教職員とともに茶内小学校をつくってまいりたいと考えておりますので、様々な視点からの御指導・御助言をよろしく申し上げます。

さて、新年の最初のテーマは「大人の学び」についてです。「学びに向かう力、人間性等」が子どもたちに求められていますが、その前に、私たち大人が率先して学ぶ必要があると考えます。人材開発の専門家である中原淳氏（立教大学教授）は、具体的な行動に照らして「大人の学び」について、次のとおり考えています。

大人の学びの「7つの行動」

行動① タフな仕事から学ぶ

- ・ 前例のない仕事、自分の能力ギリギリのところまで全うできるような、難易度の高い仕事を通じて人は成長する。
- ・ 職場にいる時間はとても長いので、仕事を学びに生かすことが最も効果的。

行動② 本を1トン読む

- ・ 本を読み、知識をアップデートすることは、不確実性の高い時代に重要。
- ・ 本を読むとは、自分の中に地図をもつこと、自分がどこに立っていて、どこに向かおうとするのか知るのが役立つ。
- ・ 本を読むことは、他者の経験や思考を効率よく学ぶことができる。

行動③ 人から教えられて学ぶ

- ・ 先生だけでなく、様々な人から、必ずしも公式の教育機関ではない場所でも、学ぶことはできる。

行動④ 越境する

- ・ 自分の慣れ親しんだ場所を離れて、違和感を感じる場所に行き、気付きを得ること。「越境学習」とも呼ばれる。
- ・ 普段慣れ親しんでいる場所の特殊性や偏っている部分を知るきっかけになる。
- ・ 「外に出ると通用しない」という事実が、今後の学びを広げる。

行動⑤ フィードバックを取りに行く

- ・ 「第三者から見て、自分が、どのような状況に見えるか」を客観的に指摘してもらい、自分を立て直す必要がある。
- ・ 受け身ではなく、自分からフィードバックを取りに行くことが重要。
- ・ これまでの自分のやり方や考え方を捨て去る。

行動⑥ 場をつくる

- ・ 人々が集い、コミュニケーションするような機会やイベントを自ら主催する。
- ・ 企画をして人を集めるのは苦労も多いが、メリットも多い。感謝されるし、人が集まるところに情報も集まる。

行動⑦ 教えてみる

- ・ 教える側と学び手側が対話を行うことで、学び手が変わり、教え手も変わる。感謝されることも多いので、教え手のモチベーションも高まる。
- ・ 教えるということは、「学ばざるを得ない状況」を自分で作り出すことでもある。

校長の職に就いていられる時間は、あと3年3ヶ月です。今年は、上記の「行動」を1つでも実践し、「学び続ける校長」になりたいと考えています。「校長職は決して『あがり』のポストではない」、このことを肝に銘じながら学校経営に邁進してまいります。